

極寒地での作業用ウェアのテクノロジーが濃縮されたクランの電熱ウェア

身体を温めておくのに最も重要なのが「空気層」だ。この層の部分に熱を蓄えることによって温かさがキープできるのである。分かりやすいのがダウンジャケット。ふわふわとした部分に熱が蓄えられ、空気層を利用して温かさをキープしている。それと同じ原理で、独自のシステム【ハッズ】で実現しているのがこのホットインナージャケットだ。熱伝導も効率的で、温かさが保てるのである。また、その空気を逃さないような工夫も設けられている。ウエスト部分の内側にはアジャスターコードでキュッと締められるようになっていたり、袖口には風の侵入をシャットアウトするフィンガーホールも備わっている。温めて熱を逃さない、これが最も重要だ。

温度は2段階の調節が可能



嬉しいのが温度の調節が2段階で可能だということ。外気は走っている場所でも変わってくる。MAXが60%かをチョイスできる。

コードは邪魔にならない場所



メッシュ素材の裏地になっているので温かい空気を体に送り込みやすいシステム。ケーブルもライディング時の邪魔にならない場所だ。

電源はバッテリーから!



従来にあったリチウムバッテリーなどではなく、愛車のバッテリーから繋げるのでパワー残量の心配からも開放される。

袖先からの風もシャットアウト!



本格的なアウトドアウェアにも取入れられているディテール。風を中に入れないというのは温かさをキープする上で重要な点だ。



クラン/ホットインナージャケット

¥21,384

サイズ:S, M, L, XL, 2XL, 3XL, 4XL

カラー:ブラック

問) ジャベックス TEL.03-3773-7633

<http://www.jpapex.net/>



オススメ度

旅

★★★★★

冬のツーリングは過酷というのが定説だが、このアイテムがあれば長距離ツーリングだって快適だ。寒さを気にしない分、もっと遠くまで行って行ける。もちろん街乗りでも使える気軽さも◎!

オススメ度

冬

★★★★★

人は歩けば自ら発熱するが、バイクの場合はひたすらに寒さに耐えるだけだ。秋口にはまだ少し早いアイテムかもしれないが、あっといふ間に冬はやってくる。早めに電熱ウェアを取入れたい。

冬のツーリングは過酷というのが定説だが、このアイテムがあれば長距離ツーリングだって快適だ。寒さを気にしない分、もっと遠くまで行って行ける。もちろん街乗りでも使える気軽さも◎!

人は歩けば自ら発熱するが、バイクの場合はひたすらに寒さに耐えるだけだ。秋口にはまだ少し早いアイテムかもしれないが、あっといふ間に冬はやってくる。早めに電熱ウェアを取入れたい。

機能的なギアを堪能できる季節がやってきましたよ!

バイク用のウェアやギアで面白いのが年々進化しているところ。これ以上はないだろうなと思うところも数年後には新しい素材、技法が取り入れられているから面白い。それが顕著にるのが秋冬のライディングギアである。夏も身体を涼しく保てるようなインナーもあるが、種類で言えば冬のアイテムのほうがダントツである。

従来であればインナーを着てフリースなどのソフトシェルで保温し、一番上には防風、防水機能があるハードシェルのジャケットやライダースに身を包むというのが定番であり、これは今も昔もさほど変わりはないのだが、電熱ウェアの誕生でそれが大きく変化した。それは何枚もの重ね着から開放されるという点だ。これは近年、大きく発展したアイテムで各メーカーこぞって特徴を出してリリースしているが、まだ電熱ウェアだけに頼って薄着で出かけてはいけない。バイクに乗っている時は温かくてもバイクから降りた時には熱が供給されなくなるからだ。(バッテリーから熱を供給しているタイプの場合)これも今後は解消されていくのかもしれないが、そういった点もあるというのを忘れておく。そして他にも注目したいのがグローブ。何も分らない10代の頃は冬にメッシュグローブを付けて過ごすという無謀なこともしていたが、快適さを知らなかったから出来たことだ。末端の冷えはクラッチを握るのも苦痛になるほどツライ。現在の冬グローブの主流は表面に防風、防水素材を使い、中綿にはハイテクな発熱素材をしているものが多い。技術が進み、それを天然素材であるレザーに施されているタイプもあり、デザインと機能性を兼ね備えたモデルも存在する。または安全面に力を入れてプロテクションを多く付けているというの。それらを身につけたときにどのくらいの効果が発揮するのか? そんな機能の体感を楽しんでほしい。